



新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

3. 11を忘れない（釜石の奇跡）

校長 永浜 裕之

東日本大震災発災から10年という節目を迎え、新聞等には、当時を振り返り検証する記事が多数掲載されています。今でも約43,000名の方が、47都道府県940の区市町村に避難している現状や、原発事故の教訓など、新聞から学ぶことがたくさんあります。本校は、東京都教育委員会の施策によって新聞6紙を購読しており、都合の良い時に図書館で読むことができます。是非足を運び、メディアリテラシーを高めてください。

さて、東京都教育委員会は、毎年夏季休業日中にすべての小中高特別支援学校から悉皆参加で、教員を対象とした学校安全教室指導者講習会を開催しています。講習会では、被災地の教育関係者が講演を行う場面がありますが、その方たちは、お会いするたびに、被災時に東京都が行った支援に対するお礼を口にされます。東京消防庁や警視庁が行った支援や、都民が行ったボランティアへの感謝を聞くたびに、その気持ち、優しさに胸を打たれます。

講演では、被災状況を撮影した映像も用意され、その悲惨な状況に圧倒されます。YouTube等でも公開されていますが、私は2本の映像（動画）を視聴しました。一つは、宮城県石巻市の、石巻ガス社屋の屋上で撮影した津波の映像です。建物は、海岸から500mも離れた所にあります。第一波は静かな浸水です。しかし、第2波、第3波は、どうなったか。画面真ん中に移っている松並木はどうなったか。自動車はどうなったか。水の勢い、高さなどを、電柱や建物と対比させると脅威を感じます。津波の恐ろしさがよくわかる映像で、津波が引いた後は厚さ10cm程度のヘドロが堆積し、その上に建物の残骸等のがれきが積みあがっていたそうです。「これでもまだよい方だ」そうです。他の地域では、津波が電柱、鉄塔を倒し、建物・自動車を押し流し、火災を起こした家同士がぶつかり、大きな火災が発生した地域もあったそうです。二つ目の映像は、岩手県釜石市、釜石市役所付近の映像を見ましたが、至近距離から津波が押し寄せる恐ろしい様子が撮影されていました。

この話を聞いて、「東京は津波がこないから私には関係ない」と考えた人はいませんか？そのとおり、災害は地域特性があります。しかし、旅先で被災する可能性もありますから、無関係とは言い切れないと思います。たとえば2004年に起きたインド洋津波では、多くの旅行者を含め、230,000人もの人が亡くなっています。

私は、高校生の皆さんが、防災に関する知識を得るとともに、防災に対する実践力を身に付けてほしいと強く思っています。冷たい言い方ですが、「津波警報」が出て避難しない大人が被災しても自己責任だと感じます。でも、若者たちに防災の知識を与え、自己判断するための情報は、しっかりと与えなければならないと考えます。防災に関する知識や実践の経験があれば、被害を防ぐ、あるいは軽減できると考えます。

今回は、「釜石の奇跡」と呼ばれる話を紹介します。皆さんの教訓になれば幸いです。

釜石市は、明治三陸津波、昭和三陸津波、チリ津波と、周期的に津波の被害を受けてきました。明治三陸津波では、5,000人の村人のうち、4,000人が亡くなっています。津波被害を防ぐために、釜石市には、「湾口防波堤」と呼ぶ、釜石湾を覆うような形で防波堤が作られました。30年という年月をかけ、1,200億円強の費用（＝釜石市民一人当たり300万円以上の費用）で、海底から63m、海上を含めると70m級の防波堤が作られました。皮肉なことに、この防波堤が存在することにより、東日本大震災時にも「大丈夫だ」という住民の過信につながり、被害が大きくなったという方もいます。

東日本大震災では、1,000名以上の釜石市民が亡くなっていますが、99.8%の小中学生が助かっており、「釜石の奇跡」と呼ばれています。子供たちは何故、助かったのでしょうか。その理由は、多くの子供たちが、自らの命を守る術（すべ）を身に付けていたからです。実は、東日本大震災が起こる数年前までは、釜石の小中学生に、「津波が来たらどうする」と聞いても、「堤防があるから大丈夫。逃げない」と答える子供が大部分でした。**このことに危機感を抱いたある教員が、防災教育を推進し、子供たちの意識を変えていったのです。**

釜石市では、地震発生1時間後に津波が町を襲いました。小学校低学年の子供たちの多くは下校し、家にいたり、外で遊んでいたりでいました。子供たちは学校で、「大きな地震の後には津波が来る。すぐに高いところに避難しろ。」と教えられています。多くの子供たちは、自分の判断で高台へ避難したのです。中には、おじいちゃんと一緒に避難しようとして、おじいちゃんに「わしゃ逃げん」と言われた子供もいました。「テレビで津波の予想が3mと報道され、釜石の堤防は6mあるから大丈夫」とおじいちゃんは言います。最後は子供が泣きじゃくり、まわりつので、仕方なく、おじいちゃんは避難します。避難したのち、不幸にも家は津波で流されてしましますが、命は助かりました。また、中学生が、「僕らは守られる立場じゃない。守る立場だ」と言い、避難する途中で、保育園や老人ホームに立ち寄り、幼児や高齢者とともに避難した話もあります。このように、**子供が大人を助けた話は、釜石でたくさん聞くことができます。**

悲しい例もあります。ある小学校では、まず校庭に避難し、次にどこに避難するか、教員間で意見がまとまらず、時間をかけて、川岸の三角地帯へ避難することを決めます。河口から4km上流にある三角地帯は、避難場所に指定されていたところでした。その場所を津波が襲い、児童78名中74名が死亡、教職員11名中10名が死亡しています。この悲劇は、5分で避難が完了する裏山へ避難していれば起こりませんでした。当日、校長は年次有給休暇を取得しており、不在でした。大きな地震に驚いて車で

学校に向かい、避難している児童と教職員が津波に飲み込まれる様子が見えたものの、どうすることもできなかったそうです。

このことで、「防災教育（安全教育の災害安全）」は、他の教育と異なるということを感じます。**安全に関する知識は、皆さんが身に付けると同時に、私たち教職員も、皆さんの命を守る立場として、確実に身に付ける必要がある**ということです。

防災では、「自分の命を守る」ことが、一番大切です。人を助けることを第一に考えがちですが、自らが無事でなければ人を助けることなどできません。これを「自助」といいます。自助の教えにしたがえば、津波が来る恐れがあるときは、「真っ先に自分だけで逃げろ」ということになります。これを子供たちに伝えたと、怪訝（げげん）な顔をされます。人を差し置いて真っ先に逃げるのが、倫理的に許されるのか？と感じるようです。防災では、「**まず自分の命を守り、次に身近な人を助け、さらに避難所の運営など、地域に貢献する**」、つまり、自助から共助へと進むことが大原則です。「自分の命を守り抜き、そのうえで、できることをする」ということです。

防災は、地震に備えるだけでは不十分です。私たちの周りには、地震をはじめとして、大雨や台風、竜巻、土石流、落雷、火山被害など、多くの風水害の危険があります。**地震や津波への対処法をはじめ、火山による噴石や土石流、津波、竜巻、鉄砲水落雷などに遭遇した時の対処法を、各家庭に配布された「東京防災（防災ブック）」で学んで下さい。**そのほか、**学校で配布される「東京マイ・タイムライン」や「防災ノート」、「地震と安全」、「3.11を忘れない」などの資料を活用して知識を得るとともに、各地域で実施される「防災訓練」に参加するなどして、実践力も身に付けてほしい**と思います。

オリンピック・パラリンピック教育と音楽Ⅰの自由発表について

音楽科 長屋 富美

今年コロナ渦のため、音楽の授業での歌唱は制限されましたが、例年通り、オリンピック・パラリンピック教育と自由発表は実施できました。音楽Ⅰでは、オリンピック・パラリンピック教育の資質の中で、日本人としての自覚と誇り、豊かな国際感覚を目標として指導しました。指導者として、小鼓奏者の福原千鶴さんを招聘しました。福原さんの日本の伝統・文化を誇りに思う気持ち、海外への日本文化の発信についての説明を生徒は熱心に聴いていました。また、授業で実践している三味線で、勸進帳「寄せの合方」「千本桜」の2曲を小鼓と合奏しました。プロならではの掛け声、間の取り方で、素晴らしい合奏ができました。

自由発表は、実技の制限がある中、プレゼンテーションによる発表が多く見られました。東京都教育委員会がOffice365の利用環境を整えてくれたため、情報科のある本校では、情報科教員やICT支援員の協力で立派な発表ができました。生徒はTeamsを活用し、作品を制作します。世界の国歌やコロナ渦の生活についての作曲等、生徒の個性が発揮された作品が制作されました。社会の状況に柔軟に対応する能力が培われたことは、本当によかったと思います。このような授業の機会を与えて頂いたことに感謝いたします。

軽音部 2020年度活動報告 ～映像作品制作プロジェクト～

軽音部顧問 押久保 誓志

軽音部では毎年、年に数回のライブを目標に活動していますが、コロナ禍によって例年の活動ができなくなってしまいました。そんな中、ネットフェスの計画が持ち上がったことで、そこに目標を定めて活動を行いました。

当初は、単純に「演奏風景を撮影して公開する」ことが目標でした。しかし、部員からの提案で「映像作品として良いものを作る」ために、様々な試行錯誤を重ねて準備を進めました。概ね以下のようなスケジュールと内容でしたが、曲の練習だけでなく、撮影ライブのための実験を何度も何度も重ねました。



7月：バンド・曲決め ⇒ 8～9月：練習・準備 ⇒ 10月：撮影ライブ ⇒ 11月：映像編集

会場設営チーム	照明演出チーム	音響・PAチーム	撮影・編集チーム
演奏セットの周りに暗幕による囲いを設け、あえて狭く設営してライブハウス感を演出。	校内の機材を研究。演奏者が記入する要望書に従い、計画的に演出。	空間音とライン音源（各楽器から直接送られる音）をPCでミックスし、臨場感ある音質を再現	演奏者が記入する要望書に従い、カメラ複数台で撮影。PCで映像作品に編集。

初めは一部の部員によるチャレンジでしたが、最終的には他の部員たちも一丸となって協力し、約30名の部員が参加して撮影ライブは大成功でした。その後、編集を担当した部員がしっかりと仕上げ、作品を提出できました。約5ヶ月間かけた活動の集大成が、山吹金賞という結果となり、喜ばしく思っています。

コロナ禍ということで、検温や消毒・マイクの使用ルールなど細かなやりづらさはあったものの、しっかり守って作品を作り上げた部員たちは本当に素晴らしい一言です。これを書いている2月現在は緊急事態宣言発令中により活動できていませんが、これからも部員が主体となって活動していくことに期待しています。

最後に、音楽好き・ロック好きはもちろん、舞台演出に興味がある、音響やってみたい、映像編集好き！など、演者・裏方問わず部員募集中です。興味がある生徒はぜひ顧問まで話を聞きに来てみてください。

定時制課程 学校行事予定 3月14日(日)新入生履修登録 15日(月)在校生履修登録締め切り 17日(水)～23日(水)学力スタンダード補習 24日(水)卒業式 25日(木)修了式 26日(金)転学・編入学入学者選抜	通信制課程 学校行事予定 3月13日(土)学校説明会 24日(水)卒業式 26日(金)春季休業開始 29日(月)科目登録・購入教科書等一覧の発送
--	--

